

可児市人口ビジョン(概要)

【対象期間】 平成 72(2060)年までの 45 年間

【位置づけ】
今後目指すべき本市の将来の方向と人口の将来展望を提示するものとして策定。

《人口の現状分析》

- (1)人口動向分析
可児市は、すでに人口減少段階にあり、老年人口が増加し、年少人口を上回る。
- (2)将来人口の推計と分析
国立社会保障・人口問題研究所準拠の推計では、平成 52(2040)年に約 82,000 人、平成 72(2060)年に約 65,000 人まで減少すると予想されている。
- (3)人口の変化が社会に与える影響
労働力の減少による経済的影響
高齢化の進展による社会保障費等の負担増加
人口の減少による社会サービス(公共・民間)の低下

《人口の将来展望》

- (1) 市民アンケート調査から必要なこと
【定住】
・ 魅力と住みやすさをアピール
・ 就業の場の確保、自然の豊かさや生活の利便性などの住環境の向上
・ 可児市に住み続けたいと思うような意識づくり
【結婚・出産・子育て】
・ 若い世代の経済的な安定や結婚の希望をかなえるためのきっかけづくり
・ 子どもを望む人に対する支援
・ 経済的な不安をなくし、子育て支援施設を充実
- (2) 目指すべき将来の方向
自然減対策における基本方針
「結婚・出産・子育ての希望がかない、安心して暮らせるまちの実現」
社会減対策における基本方針
「魅力があり、住みたい・住み続けたいと思う、元気のあるまちの実現」
- (3) 人口の将来展望(住民基本台帳ベース)
平成 72(2060)年において人口 8 万人程度を目指す。
～平成 32(2020)年における人口は概ね 10 万人を維持する。～

可児市総合戦略(概要)

【対象期間】 平成 31(2019)年度までの 5 年間

【位置づけ】
「可児市人口ビジョン」を踏まえ、人口減少に歯止めをかけるための基本方針、基本目標、具体的な施策をまとめるものとして策定。

《推進・検討体制》
(1)PDCA サイクルの構築
・ 計画策定後の検証の実施及びPDCAによる改善
(2)推進・検討体制
・ 市・関係機関・団体等による施策実施、実施状況の点検
・ 外部組織による検証、必要に応じた改定

《戦略の基本方針》 住みごこち一番・可児 若い世代が住みたいと感じる魅力あるまちの創造

《基本目標・数値目標》	《主な施策》	《重要業績評価指標(KPI) H31》
<p>【基本目標1】(元気) 安定した生活基盤を築ける「人と経済が元気なまち」を創る</p> <p>【数値目標(H31)】 市内の総生産額： 3,500 億円 市内事業所従業者数： 35,800 人 製造品出荷額等： 5,300 億円</p>	<p>(1) 企業の誘致・拡張と活動の支援 ① 新たな企業立地を促進 ② 市内企業の拡張・活動を支援</p> <p>(2) 地域産業の活力づくり ① 創業・起業を支援 ② 消費を喚起し、市内産業の活力につなげる ③ 地域資源のブランド化を推進</p> <p>(3) 「ひと」と「しごと」の好循環の構築 ① 若者の地育地働を支援 ② 仕事と育児の両立を支援 ③ 外国籍市民の安定した就労につながる、共生社会を創る</p>	<p>新規立地・拡張企業の操業開始時における新規雇用人数 (うち正社員数)(累計)： 170 人(120 人) 創業・起業件数(累計)： 75 件 地域通貨 K マネー発行額： 1 億 5,500 万円 可児市の自慢できるものを記入した人の割合： 90% 市内高校生の市内企業への就職率： 25% 岐阜県子育て支援企業登録制度に登録している企業数：100 企業 ハローワークで求職した外国籍市民のうち、就職した人の割合： 12%</p>
<p>【基本目標2】(魅力) 市の魅力を向上・発信することにより、人を引き付ける「魅力とつながりのあるまち」を創る</p> <p>【数値目標(H31)】 観光交流人口： 450 万人 可児市に愛着がある人の割合： 30%</p>	<p>(1) 市の魅力の向上と発信 ① 観光資源を掘り起こし、磨き上げ、魅力を伝えることで交流人口を増やす ② 市の魅力や地域資源を PR</p> <p>(2) 定住・移住の促進 ① 定住・移住を促進するために都市機能や土地利用のポテンシャルを活かす ② 定住・移住を促進するために住みよさを PR</p> <p>(3) 地域と市民の元気づくり ① 市民の文化的な活動を促進し、交流とうるおいをもたらす ② 市民のスポーツ活動を促進し、市民の元気をつくる ③ 市民の支え合い活動を支援</p> <p>(4) 子どもたちのふるさとを愛する心を育む ① 子どもたちにふるさとの良さを伝える</p>	<p>新たな交流人口の増加数： 70 万人 住宅事情により転入した人数(年間)： 720 人 可児市にずっと住みたい人の割合： 70% 文化創造センター利用者数： 324,500 人 可児 UNIC(ユニック)スポーツクラブの講座の参加者数： 27,000 人 地域支えあいポイント交換による K マネー交付額： 700 万円 美濃桃山陶の聖地を実感するお茶講習会の実施小中学校数： 11 校</p>
<p>【基本目標3】(希望) 子育て世代が安心して、妊娠・出産・子育てができる「子育ての希望がかなうまち」を創る</p> <p>【数値目標(H31)】 「子育てしやすい」と感じている市民の割合： 45% 児童生徒の学校生活の満足度： 小学校・中学校 60%</p>	<p>(1) 安心して子育てできる環境づくり ① 子育て家庭と子育て支援をつなぐ ② 子育ての大切さやノウハウを学ぶ ③ 地域のみんなで子ども・子育てに関わる ④ 子育て支援を総合的にサポートする拠点をつくる</p> <p>(2) 子ども心に寄り添い、個々の力を引き出し、伸ばす ① 子どもの育ちと学びの流れをつなぐ ② コミュニケーション能力の向上を図る ③ いじめの防止・解決に取り組む ④ 外国籍児童・生徒の就学・進学を支援 ⑤ 子どもたちにふるさとの良さを伝える(再掲)</p> <p>(3) 結婚への機会づくり ① 出会いの場づくりを支援</p>	<p>乳幼児健康診査受診率： 98% 家庭教育学級(乳幼児学級を含む)に参加した延べ人数： 10,220 人 子育てボランティア登録者数(子育て支援拠点施設)： 150 人 不登校児童・生徒の復帰率： 小学校 30% 中学校 20% 言葉と身体表現を使ったワークショップの延べ参加人数： 580 人 いじめ解消率： (参考値 73.4%(H26)) 外国籍生徒の高校等への進学率(帰国を除く)： 78% 美濃桃山陶の聖地を実感するお茶講習会の実施小中学校数(再掲)： 11 校 市内で行われた婚活事業への参加者数： 200 人</p>
<p>【基本目標4】(安心) 地域で安心して暮らし続けることのできる「健康と安心が実感できるまち」を創る</p> <p>【数値目標(H31)】 健康寿命： 平均寿命の増加分を上回る延伸 地域福祉協力者の登録数： 390 人</p>	<p>(1) 健康で暮らせる環境づくり ① 運動や健康づくりに親しむ機会を提供</p> <p>(2) 支え合いにより地域で暮らせる仕組みづくり ① 地域、医療、福祉が連携して安心な生活を確保 ② 地域の支え合いの活動を支援</p> <p>(3) 安心して暮らせる生活環境づくり ① 生活が守られ、暮らしの安心を確保 ② 公共交通により、より良い移動手段を確保 ③ 将来にわたり持続可能な公共施設を運営・管理</p>	<p>30 分以上の運動を週 2 回以上、1 年以上続けている人の割合： 30%以上 地域支えあい活動助成制度による支援団体数： 23 団体以上 地域支えあいポイント交換による K マネー交付額(再掲)： 700 万円 地区別災害時行動マニュアルの作成組織数： 53 組織 コミュニティバス利用者数： 85,800 人 施設(公民館)の稼働率： 30%</p>